

2018年度 図書館実務担当者研修会 ワーキングB 活動概要

テーマ	学修支援・利用教育		
概要	情報リテラシー教育の枠組みとして、印象づけ、情報サービス案内、情報探索法指導、情報整理法指導、情報表現法指導からなる5つの領域がある。大学図書館員には、所属する大学のニーズを明らかにした上で、必要な情報リテラシー教育をデザインしたり提案したりすることが求められる。このワークショップでは、所属する大学のニーズを明らかにし、それをもとに効果的な情報リテラシー教育をデザインし、展開するプロセスについて理解を深める。		
講師	長澤 多代 氏	所属	国立大学法人 三重大学 地域人材教育開発機構 大学図書館・学習支援部門 / 附属図書館 研究開発室 准教授

事前活動	<ul style="list-style-type: none"> ・所属する大学の3つの方針（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッションポリシー）を確認する（特定の学部や学科の方針でも可）。 ・所属する大学の活動や特徴について、任意で5つをリストアップする。 ・所属する大学でファカルティ・ディベロップメントなど教育開発を担当する部署や委員会を確認する。 ・次の文献を講読する。 丸本郁子、赤瀬美穂「パートナーシップの構築」日本図書館協会・図書館利用教育委員会編『図書館利用教育ハンドブック：大学図書館版』2003、p.27-30。 (他の部分にも目を通しておいください。) 		
研修会当日	【1日目】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己紹介 2. 講義…大学教育改革の背景 3. ワーク…ニーズを把握する方法、支援の対象について検討、ディスカッション 4. 講義…情報リテラシー教育の方法、教員、学内の関係者との連携 5. ワーク…学習目標、到達目標の設定について検討、ディスカッション <p>ワークでは、グループに分かれ事前に調査した所属大学のポリシー等を元に、各大学のニーズにあった、情報リテラシー教育プログラムを計画した。計画に際しては、ワークシートを使用した。</p>	
	【2日目】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義…評価の方法 2. ワーク…プログラムの具体的な内容について検討、ディスカッション 3. 全体発表の準備 	
	【発表】	3グループから代表者が1名ずつでて、各々が作成した情報リテラシー教育の計画を発表した。	
事後活動	特になし		
そのほか (特記事項等)	特になし		

担当委員※	近藤 佑希子	所属	中部大学
担当委員	石川 宗臣	所属	日本福祉大学
担当委員	菅野 均美	所属	南山大学
担当委員	杉山 陽子	所属	藤田医科大学
担当委員	古田 玲子	所属	愛知大学

※はワーキング責任者